

「公立大学法人神戸市看護大学中期目標(素案)」
にかかるとる評価委員の意見について

NO	評価委員の意見	神戸市の考え方
1	前文 表現の重複等があるので、整理をすべき。	文言、表現の重複を極力なくし、簡潔な形に整理する。
2	全体 第1から第9に渡り項目が多いため、地域貢献とブランド化など、まとめられるものは統合すべき。	<p>「第3 地域課題の解決や健康創造都市戦略を担う、学術研究の推進」、「第4 市民との連携・交流による、地域の保健医療等への貢献の推進」、「第5 グローバルな視点を培う、国際交流の推進」、「第6 大学ブランドの確立と効果的な情報発信」を統合し、「第3 学術研究、地域貢献活動、国際交流の推進等による、大学ブランドの確立」とする。</p> <p>「第7 変化に対応しブランドを確立するための、業務運営の改善及び効率化」、「第8 自己収入の確保と経費の効率的執行による財務内容の改善」、「第9 その他業務運営の基本となる事柄についての目標」を統合し、「第4 業務運営及び財務内容の改善」とする。</p> <p>「自己収入の確保と経費の効率的執行による財務内容の改善」の中の、「1 外部資金獲得、施設の開放等による、多様な自己収入の確保・充実」、「2 コスト意識の向上と業務改善・効率化による経費の適正化」を項目整理のため、1項目に統合する。</p> <p>「その他業務運営の基本となる事柄についての目標」の中の、「1 関係者の心身の健康と安全の確保、危機管理体制の整備」、「2 人権意識の向上によるハラスメント行為の防止」を項目整理のため、1項目に統合する。</p>
3	第2 社会的ニーズに対応した幅広く高い能力を持つ、看護人材の育成 「3 教育の質の改善・向上」は、第7-5 自己点検・評価による改善、情報公開による透明性の確保と重複するため整理すべき。	「3 教育の質の改善・向上」の内容は、「自己点検・評価による改善、情報公開による透明性の確保」に統合・整理する。
4	第2 社会的ニーズに対応した幅広く高い能力を持つ、看護人材の育成 第3 地域課題の解決や健康創造都市戦略を担う、学術研究の推進 第4 市民との連携・交流による、地域の保健医療等への貢献の推進 市民病院はポテンシャルが高く、人事確保のみならず協働が必要である。今後は、市民病院といかに連携していくかが重要である。 現場を持たない大学に比べ、医療産業都市という先進的な取り組みと連携できるメリットもある。	「市民病院群と連携して」という文言を追加することで、教育・研究、地域貢献活動などで市民病院機構と連携を重視していくことを明確にする。
5	第4 市民との連携・交流による、地域の保健医療等への貢献の推進 COC活動を通じて地域住民との関係を築いてきた看護大学のスピリッツを反映するような点があってもいいのではないかと。	「COC事業(地(知)の拠点整備事業)等の成果を活かしながら」という文言を追加する。
6	第4 市民との連携・交流による、地域の保健医療等への貢献の推進 大阪府立大学の看護学部は8割が大阪で就職するが、神戸市看護大学は半分以上が就職の際に市外・県外に出て行ってしまう。卒業した後、市内に就職してもらう政策が必要ではないかと。	<p>「学生への支援」の項目の中に、「就職支援の体制の充実を図り、市内就職を推進する」という文言を追加する。</p> <p>「多様な収入の確保・充実」の項目の中に、「学生の市内就職を促進する授業料等の学生納付金体系について検討する」という文言を追加する。</p>
7	第5 グローバルな視点を培う、国際交流の推進 看護師免許は日本国内でのみ使えるもので、留学生が帰国した際使えないので、学部の看護師教育に対する留学生の受け入れは難しい。「将来的な医療・介護人材の動向を踏まえ」の部分はより分かりやすい表現に改めるべき。	「国際都市神戸にある大学として、国際化が進む保健・医療・福祉分野において、海外からの留学生の受け入れを推進するとともに、医療介護分野等で働く外国人のキャリアアップを支援する。」という文言を追加し、内容を明確化する。

「公立大学法人神戸市看護大学中期目標(素案)」
にかける評価委員の意見について

NO	評価委員の意見	神戸市の考え方
8	<p>第6 大学ブランドの確立と効果的な情報発信 第7 変化に対応しブランドを確立するための、業務運営の改善及び効率化 人材確保とブランド力について記載があるが、現実には非常に難しい。若手も自前で育成するとともに、優秀な人材を確保するには広報や戦略的な採用が必要なので、その部分をもう少し肉付けすべきではないか。</p>	<p>「学術研究の成果、地域の保健医療への貢献、国際交流の推進、市民病院群等での実習教育など神戸市看護大学の強みを効果的に情報発信するとともに、看護実践を変革できる看護専門職の育成と知の拠点づくりを実現する神戸市看護大学を大学ブランドとして確立していく。」という文言を追加する。</p>
9	<p>第7 変化に対応しブランドを確立するための、業務運営の改善及び効率化 法人化を契機に従来の型から抜け出し、人材不足などの課題を解決するため、多様性のある人材が入ってくる状況を作れば良い。</p>	<p>「優れた教職員を確保育成し、特性を活かす、人事・組織制度の構築」の中に、「多様な人材の確保と教職員の能力向上に取り組む」という文言を追加する。</p>
10	<p>第7 変化に対応しブランドを確立するための、業務運営の改善及び効率化 法人化を契機に看護大学に発展してもらいたいが、そのためには費用がかかる。スケールメリットが発揮できるよう考えるべきではないか。</p>	<p>「優れた教職員を確保育成し、特性を活かす、人事・組織制度の構築」の中に、市内大学等との連携をめざし、「外部資源の活用」の文言を追加する。</p>
11	<p>第7 変化に対応しブランドを確立するための、業務運営の改善及び効率化 「3 事務の効率化・合理化」は、他の項目との統合を検討すべき。</p>	<p>「自己収入の確保と経費の効率的執行による財務内容の改善」の中に、経費の適正化の具体的な内容として統合・整理する。</p>
12	<p>第8 自己収入の確保と経費の効率的執行による財務内容の改善 国立大学では運営交付金が減少する中で、寄付講座をどれだけ作っているかが大事となることから、寄付講座についてどこかに盛り込むと良い。</p>	<p>「寄附金等の外部資金の獲得に積極的に取り組む」と記載しており、寄附講座も念頭に置いている。</p>
13	<p>全体 事務局による表現の変更や内容の明確化(主なもの)</p>	<p>「第2 社会的ニーズに対応した幅広く高い能力を持つ、看護人材の育成」の「2 大学院教育」の中に、看護専門職の具体例として「専門看護師などの」という文言を追加し、内容を明確化する。また、第2段落と第3段落の前後の段落を入れ替える。</p>
14		<p>「第2 社会的ニーズに対応した幅広く高い能力を持つ、看護人材の育成」の「3 学生の支援」の中で、「国家試験対策」という文言を削除し、「学習面」という表現に修正する。</p>
15		<p>「第3 地域課題の解決や健康創造都市戦略等を担う、学術研究の推進」の中に、「看護学をはじめとする各学問分野の発展に寄与する研究に取り組むとともに」という文言を追加し、内容を明確化する。</p>
16		<p>「第7 変化に対応しブランドを確立するための、業務運営の改善及び効率化」の「1 効率的で機動的な組織運営体制を構築し、地域の発展に貢献する大学へ」の1段落と2段落の内容を全体的に表現を変更し、内容を明確化する。</p>
17		<p>「第7 変化に対応しブランドを確立するための、業務運営の改善及び効率化」の「2 優れた教職員を確保育成し、特性を活かす、人事・組織制度の構築」の中に、多様な人材の確保等の目的として、「法人の円滑な運営を図るため」という文言を追加する。また、人事評価システムの構築の目的を明確にするために、「教職員の意欲向上や教育研究の質向上を図るため」という文言を追加する。</p>
18	<p>その他 法人化を契機により良い大学にするためには資金が必要だが、神戸市の予算、運営交付金は今後どうするのか。</p>	<p>中期目標の記載とは別に、地方交付税算定上の基準財政需要額を確保できるよう努めていく。</p>